

# 特集 楽しく見せるための施設改修

園長補佐 三浦 匡哉



1973年の開園から46年目を迎えた大森山動物園には、開園当時の施設がいくつか残っています。年数を経た施設でも「動物を近くで見たい」、「触ってみたい」、「エサをあげたい」などのお客様の要望に応えるため、飼育員からもさまざまなアイデアを募り改修を行っています。

また、施設の改修費用には、ネーミングライツ・パートナーである、株式会社秋田銀行様からのパートナー料などを活用しています。本号では、これまでの代表的な改修事例について紹介します。

## ミーアキャット展示場 (2019年改修)

飼育展示担当 佐々木 祐紀

ミーアキャットは多彩な表情を見せてくれる見ていて飽きない動物ですが、以前のミーアキャット展示場は、堀を挟んで2m先に動物がいる状態で、小さなお子さんからは見えにくく、動物が堀に落ちないように透明な板で囲って防いでいました(写真1)。

「お客様に楽しんでいただくにはどうしたらいいか」、そんな思いから新たな展示方法を考えました。

一つは、動物を間近で見たい。小さなお子さんでも動物と同じ目線で

あたかも一緒にいるように、触れ合っているかのような展示。そんな考えから展示場の前面にガラスを利用することを考えました。もうひとつは、動物の活動的な姿を見ていただくため、動物を遠くに感じさせていた堀を埋めることで、活動エリアを広げました(写真2)。

さらに思いは膨らみ「ミーアキャットを別の場所に移動させてみよう」と思いました。今の展示場の向かいに第二展示場を全面ガラス張りで作る、イメージとしては出島風の新しい展示スペースです。「さて、新しい展示場にどうやってミーアキャットを移動させるか？」地中に穴を掘って生活する特性を活かし、約1.5mの移動用トンネルを設置しました(写真3)。ミーアキャットがトンネルに馴れるまで少し時間はかかりましたが、今では戸惑うことなくトンネルを行き来する様子をご覧いただけます。

トンネルへの入口からひょっこり顔を覗かせて迎いをキョロキョロする姿は見逃せません。新しく生まれ変わった展示場で、のびのび過ごす愛嬌たっぷりのミーアキャット達に会いに来てください。



写真1:改修前の展示場



写真2:改修後の展示場



トンネル入口



写真3:展示場と出島を繋ぐトンネル

## 2 カピバラ展示場 (2017年、2018年改修)

のんびりした様子が人気のカピバラの魅力を引き出すため、2017年に「カピバラの湯っこ」を2018年に「エサやり体験スペース」を設置しました。

寒さが苦手なカピバラを、冬でも活発に展示するために作った「カピバラの湯っこ」(湯っこは秋田の方言でお風呂)は、当初、プラスチック製の簡易的なものでしたが、群れで入っても中でゆったり動けるようコンクリートの2m四方のものに拡大し、湯に落ちる姿やじゃれ合う姿が見えるよう前面をアクリル板にしました。



お客さんとは  
距離のある  
展示場



間近で  
エサやりができる  
改修スペース



改修後のカピバラの湯っこ

「カピバラがお風呂に入ってるよ!」という子どもたちの驚く声をよく聞きます。大きな体のカピバラが湯に入り、のんびりしている姿は「癒やし系」の代表で、雪の動物園での雪見風呂は、県外のお客様にも人気がありSNSなどでも反響があります。

また、「エサやり体験スペース」を整備するに当たっては、これまでエサやり体験を行っていた展示場はカピバラとお客様の距離が遠く、エサやり体験は1m以上の長い草がある夏に限定されていたことから、展示場の横の空地を利用することで、お客様との距離や視線が近いエサやりスペースが完成し、夏以外でもエサやり体験ができるようになりました。

金網越しにエサやりができるので、小さなお子様も安心して体験できます。今後はカピバラとのふれあい体験などにも活用していく予定です。

(給湯設備はホームテック株式会社様からの提供)

## 3 レッサーパンダ展示場 (2017年改修)

レッサーパンダの外展示場は、2016年に双子のケンタと小百合が生まれ、少し手狭に感じられるようになりました。そこで、隣のペンギン舎横のスペースを活用し、「離れ」にすることにしました。離れは透明なポリカーボネートで囲われているため、間近で

展示場を  
繋ぐ橋



離れ

レッサーパンダが見られるようになりました。外展示場と離れは長さ7m、高さ3mの鉄製の橋で繋ぎ、お客様の頭上の橋をレッサーパンダが歩く様子を見られるようにしました。橋を渡るときは、レッサーパンダのお腹や足の裏が見えるように一部を透明にしています。来園者からは様々な角度からレッサーパンダを見ることができると好評です。

施設の改修には、小規模なものから現在進行中のサル舎の改築など大規模なものまでありますが、いずれもお客様に楽しんで見ていただくために行っています。

これからも動物には快適で、かつ、来園者のみなさんに喜んでいただけるような施設整備を進めていきたいと思ひます。